

寛克彦 かひひ 憲法學・神道學者、法學博士。明治五年十一月二十八日長野縣諏訪郡上諏訪生れ、昭和二十六年二月二十七日歿（八七一一九六）。明治二十年東京帝國大學法科大學英法科卒。翌年ドイツ留學、二十六年母校教授。皇道主義に徹した。

著書『法理概論』（明治四十四年六月五日有斐閣書店）、『統率小論 する原理の研究』（第一卷・大正二年十一月一日海軍大學校）、『日本民族の信念』（大正五年十月二十日講談・安倍郡教育會）、『國民道徳講話』（大正八年十一月十五日石川・石川縣教育會）、『皇國運動』（菱沼理式共著、大正九年十二月五日博文館）、『神かみたらしき』（編、大正十二年十一月二十三日蘆田書店）、『風俗習慣と神かみなからり實修』（昭和四年九月十八日寛博士著作物刊行會、春陽堂發賣）、『神かみなからり道』（昭和九年八月二十一日岩波書店）、『大日本帝國憲法の根本義』（昭和十一年六月一日皇學會、異版・六月十五日岩波書店）、『小石の響』（昭和二十一年十一月三日彌樂會）、『皇國神典全書鈔』（昭和二十五年六月十日寛克彦博士著作物刊行會）、『大正の皇太后宮御歌謹釋』（昭和二十六年七月二十日寛克彦博士著作物刊行會）等。

